

令和6年

## 第8回岐阜市教育委員会定例会会議録

日時：令和6年7月24日（水）

午後1時30分から午後5時30分

会場：岐阜市役所6階 6-1大会議室

### 【教育長】

それでは、これより、第46、47、48号議案令和7年度に岐阜市立中学校において使用する全教科の教科書の新たな採択、並びに引き続き小学校で使用する全教科の教科書の採択及び岐阜特別支援学校で使用する教科書の採択承認に係る審議を始める。

最初に採択検討委員会の委員長でもある私から、これまでの経過について報告する。

別冊資料3ページを御覧ください。

5月29日に実施した定例会で承認いただいた採択検討委員会の第1回を、5月30日に開催。その後、岐阜市教職員59名の調査研究員により、6月6日、6月17日、6月26日の3回、調査研究員会を開催し、教科、種目ごとに調査研究を進めた。

各教科、種目ごとの調査研究の内容については、7月8日開催の第2回採択検討委員会において報告、調査研究資料について協議した上で、各教科、種目ごとの調査研究内容が適切かつ十分であると決定した。

これらのことを踏まえ、本日は、採択権を有する教育委員会において、各教科、種目ごとに採択する教科書を議決することとなる。

具体的には、中学校は10教科、16種目全てについて、また、小学校11教科、13種目の全てについて、特別支援学校で採択する教科書全てについて、お手元の資料1、2ページ、右下19、20の採択方針に基づいて決定することになる。

また、教科書展示会の詳細については、事務局である学校指導課から、報告する。では、事務局。

### 【事務局】

最初にお断りだが、本委員会の内容及びこれまでの採択検討委員会の審議については情報公開の対象になる。本日の内容も、9月1日の情報公開の際には、議事録としてホームページに掲載する。まず、資料25ページ。教科書採択においては、法令で「教科書展示会」の開催が義務付けられている。本年度は、文部科学省の告示により、6月14日から14日間、市内3か所において教科書展示会を開催し、資料にあるように、昨年度は73件だったが、本年度は137件の一般の方からの貴重な意見があった。これらの意見は、

第3回調査研究会で報告し、意見書に書かれていた内容も踏まえて調査研究を進め、第2回採択検討委員会でも説明や質疑の中に話題として取り上げられている。

**【教育長】**

それでは、各教科、種目ごとに説明する。

資料6ページ、右下24に、中学校教科用図書採択案一覧がある。

また、タブレット端末内に、各教科・各種目の調査研究結果の資料がある。

さらに、机上には、各教科、各種目の教科書見本本を用意している。必要に応じて該当箇所を見ていただきたい。

それでは、国語から順に提案する。

**【事務局】**

国語では、4者の教科書見本について、資料37ページの着眼点に基づいて、各者の特徴・よさをまとめながら、調査研究を進めた。学習指導要領では、国語科で育成を目指す資質能力として「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」が示されている。その「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」をもとに、生徒の発達の段階をふまえ、自らが「言葉による見方・考え方」をはたらかせられるような言語活動を授業の中で行っていく必要がある。教材配列や言語活動の工夫や充実という点に着目して調査研究を進めた結果、38ページの「評価一覧」にあるように、着眼点1(2)他教科との関連や系統性や発展性をもたせるため、身に付けたい力が系統的に項目立てられた内容や、着眼点2(2)生徒の学習改善や教師の指導改善につながる単元の学習目標や言語活動が明示されている点で、「光村図書出版」の評価が上位となった。採択検討委員会では、主に「郷土への誇りや愛着を育む教材や岐阜に関わりのある作家の取り扱い」「読むこと教材における本文表現や学習目標」などについて話題になり、質疑応答ののち、適切かつ十分な調査研究であると、全会一致で議決された。

**【教育長】**

それでは、質疑に移る。種目、国語についての質問、意見を受ける。

質問、意見はないか。

**【委員】**

着眼点の3の「岐阜市に生まれ育つ子ども」という点だが、東京書籍と光村図書の教科書に印がついている。よかった点を説明していただきたい。

**【事務局】**

まず、岐阜市にゆかりのある作家である島崎藤村「初恋」と松尾芭蕉「奥の細道」がどの教科書にも教材として取り上げられている。特に東京書籍は朝井リョウさんも作家とし

て取り上げられている。光村図書も「奥の細道」と「初恋」も取り上げられているので、協働学習において深まりという点で光村図書も遜色ないと判断した。

**【委員】**

何年生の教科書に、朝井さんは載っているか。

**【事務局】**

東京書籍の1年生。

**【教育長】**

そのほか、ないか。光村図書の特徴を紹介できるページはあるか。

**【事務局】**

1年生の教科書の220ページ、221ページ。どの教科書にも載っている「少年の日の思い出」という教材。この教材を通して、光村図書は単元学習を取り入れている。この教材を学んで、さらに別の視点から文章を書き換え、学習の出口まで見据えた学習の流れを示している。また、221ページでは学びの鍵とあって、語り手の視点に着目し、身につけたい資質・能力を、汎用的能力として位置づけ、系統的に学ばせるようにしている。

**【教育長】**

学習指導要領の趣旨や教育振興基本計画の意図や重点に沿った内容構成だということ。

種目、国語の採択について採決をする。

採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、光村図書を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

**【教育長】**

採決の結果、光村図書を採択する。

次に、書写について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

書写では、4者の教科書見本について、資料41ページの着眼点に基づいて、各者の特徴・よさをまとめながら、調査研究を進めた。学習指導要領では、国語科で育成を目指す「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」が規定されているが、そこに示された「知識及び技能」の「(3)我が国の言語文化に関する事項を身に付けることができるように指導する」の部分に、書写の内容が位置付けられている。書写が、言語活動を支える基礎的な役割を果たすことが、より明確になっている。そのため、発達段階に応じた技能・文字を身に付けられる教材の位置付け、日常生活へのつながりや、毛筆と硬筆の関連的指導などに、着目して調査研究を進めた。その結果、42ページの「評価一覧」にある

ように、着眼点1（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善において、見通しをもって学習が進められるよう、学習の流れが示されていること、また、手紙やはがき、メールなど17種類の具体例が示され、ぎふMIRI 'sに生かせる教材があるという点で、着眼点3（1）岐阜市の生徒の実態に適している教材が豊富な「東京書籍」の評価が上位となった。採択検討委員会では、「手本の提示方法」や「現代のIT社会における手書きのとらえ」などについて話題になり、質疑応答ののち、適切かつ十分な調査研究であると、全会一致で議決された。

**【教育長】**

それでは、質疑に移る。種目、書写についての質問、意見を受ける。

質問、意見は無いか。

**【委員】**

東京書籍の104ページに高校生が大活躍という、書道部の活躍の様子が記されており、岐阜市の高校も、こうした書道部が大変活躍している高校が多いが、ほかの教科書にも載っているか。そういう点で、こちらの教科書が良いと思う。どうか。

**【事務局】**

書道部は、ほかの教科書で取り上げられていない。同様のページとしては、各地域の活動に参加して、ポスターを書こうといったことが取り上げられている。ほかの教科書でも取り上げられている。

**【教育長】**

そのほか、どうか。

**【委員】**

評価の中で、「主体的・対話的で深い学びの」というアクティブラーニングのところを二重丸になっているのは東京書籍。書写でアクティブラーニングを想像できない。どのページのことを言っているのか。

**【事務局】**

東京書籍の65ページから67ページ。地域の活動に参加して、地域の方との交流を図ったり、ポスターを作ったり、学んだことをまとめたりというような具体例が書かれている。ほかの教科書も、同様に取り上げられているが、東京書籍は特に具体例が多く詳細に書かれている。

**【教育長】**

それを受けた手紙やはがきで17種類の具体例って、何ページにあるか。

**【事務局】**

65ページから67ページにある。

#### 【委員】

東京書籍は最初に、持ち方だとか姿勢だとか示している。これは三省堂も同様。最初、小学校の書き方教科書かと思った。しかし逆にこれぐらい丁寧に基本の姿勢などが書いてあるのいいのかと思った。

あとは、はがきとか手紙を実際に書くことは、将来、必要だと思う。実際、我々社会人になるといろいろな場面で手紙を書いたりする。やっぱりそういった事例が東京書籍は丁寧だと思う。時候の挨拶も幾つか載っている。効果的に事例として挙げていると感じたので、適切だと思う。

#### 【教育長】

そのほか、どうか。よろしいか。それでは、種目、書写の採択について採決をする。

採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

#### 【教育長】

それでは、採決の結果、東京書籍を採択することとする。

次に、社会、地理について、事務局、説明願う。

#### 【事務局】

地理では、4者の教科書見本について、45ページにある資料の着眼点に基づいて、調査研究を進めた。岐阜市の地理の指導では、「地理的な見方・考え方」を働かせながら問題解決的な学習をすることと、「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習」を重視している。

その結果、46ページにあるように、着眼点1(1)において、「地理的な見方・考え方」を働かせるための工夫が各単元・各単位時間など、全編を通して多く設定していることと、着眼点3(1)において、様々な地域の特色や人々の努力や営みが紹介されているため、地域的特色を多面的・多角的に考察するとともに、主体的に社会参画しようとする力を培うことができることから、「東京書籍」の評価が上位となった。採択検討委員会では、情報の収集や整理・分析する力を育む点について話題となり、質疑応答ののち、調査研究結果が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

#### 【教育長】

質疑に移る。種目、地理についての質問、意見を受ける。質問、意見は無いか。

#### 【委員】

127ページのところで合掌造りの記事が紹介されている。教科書に載っていることが

自分でイメージできる身近なコンテンツで書いてあると、学びが深まるポイントだと思う。これはたまたま今年の東京書籍の教科書に岐阜県のエピソードが載ったということか。

【事務局】

そうである。

【委員】

改訂されると、全国どこかの別のところになるかもしれないということか。

【事務局】

その都度変わっていく。

【委員】

それなら、今回は、これでよろしいという感じがする。

【委員】

観点の2の他教科の学びということだが、教科横断的な学びというのは特に大切なことだと思うが、二重丸が東京書籍だけである。どのあたりが他教科との学びにつながっているか。

【事務局】

章の導入で、小学校の社会で学習した言葉というのがある。関連のある用語が多数紹介してある。また、単元で具体的にイメージしやすい動画もある。小中の接続を図ることができる。それから、スキルアップという内容があり、高等学校の地理総合にもつながるような内容が示してある。そういった接続の観点から東京書籍が二重丸になっている。

【委員】

他学年との学びとの関連というのは納得できた。他教科という点ではあるか。

【事務局】

東京書籍の56ページ。例えば、スキルアップというページが31ページある。56ページでいうと、折れ線グラフの読み取り方を示し、数学との関連となっている。こういった点は東京書籍が最も多く示しているため、東京書籍は上位になっている。

【委員】

評価一覧の4の印刷・製本等で、東京書籍だけが二重丸になっている。教科書の厚み、重量、文字の大きさ、形式面というのが中心だと思うが、どうして東京書籍だけが二重丸なのか。

【事務局】

上位2者で比較する。帝国書院との比較では、東京書籍のほうが、見やすいフォントと

か色覚性というのについては優れている。見た感じだけでは優劣をつけることは難しいが、若干だが、ここで量とか総ページ数とか重さというのも、観点から、総ページ数でいうと東京書籍が287ページ、帝国書院297ページ、それによって重量が557グラムで帝国書院が593グラムということから、ページ当たりの重さという点でも、東京書籍のほうが軽量化を実現している。

**【委員】**

微妙だな。

**【委員】**

帝国書院と東京書籍を見ても、そんなに遜色なく、若干、個人の好みが出ているのではないか感じる。ただ、できるだけ地理は、最新のデータや情勢、また、若干、政治も絡んでくるためバイアスの少ない客観的なデータが適切に掲載されていれば問題ないと思うがどうか。

**【教育長】**

具体例はあるか。要は、学習指導要領にのっとして、地理的な見方や考え方を端的に身につけていけるような特徴的なページはあるか。

**【事務局】**

例えば、探究的な学びでいうと、127ページ、南アフリカ州の開発について。思考ツールを活用しての学びを示している。東京書籍はこういうページを各章ごとに示している。また、東京書籍のほうが、まとめの活動によさがある。142から143ページに、SDGsということ意識しながら、各地域的課題についてまとめていくページが設けられている。そういう点から東京書籍の評価が高くなっている。

**【委員】**

SDGsは、今、国連が主導しているが、その前、2013年、14年まではミレニアム開発プログラムとっていた。10年ぐらいで変わっていくもの。SDGsが今後どうなっているか分からない。今、社会としてはSDGsに取り組むという流れだから良いが、今後、変わっていくとなったら掲載内容も変わっていくのか。現状としては、確かに重要なテーマの1つではある。同じようなことが、例えば帝国書院の117ページに載っている。ただ、その投げかけの仕方が異なる。子どもたちが自分で課題を見つけて深く考察していくという投げかけが、東京書籍のほうが良い。それは十分評価に値すると思う。

**【教育長】**

教科書は主たる教材で、子どもたちが中心となって勉強する教材だが、インプットの資料というよりは、学んだことを基にその学習が発展していくような構成になっていくのが

良い。

そのほか、どうか。よろしいか。種目、地理の採択について、採決をする。

採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は、挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、東京書籍を採択する。

次に、社会、歴史について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

歴史では、9者の教科書見本について、49ページにある資料の着眼点に基づいて、調査研究を進めた。そのうちの1者「学び舎」については、見本本の提供が無かったので、ホームページ等の情報をもとに調査をした。岐阜市の歴史の指導では、「歴史的な見方・考え方」を働かせながら問題解決的な学習をすることと、「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習」を重視している。その結果、50ページにあるように、着眼点1(1)において、「歴史的な見方・考え方」を働かせるための手立てが充実しており、小学校から発展した中学校の歴史に初めて触れる生徒や、若手の教員が指導しやすい内容であることと、着眼点3(1)において、内容はもとより、単元の構成から探究的な学習を促すよう工夫されているため、「東京書籍」の評価が上位となった。採択検討委員会では、市民の意見をどのように考えたのかについて話題となり、質疑応答ののち、調査研究結果が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

**【教育長】**

それでは、質疑に移る。種目、歴史についての質問、意見を受ける。

**【委員】**

前提のところ、歴史は対象となる教科書が多いが、これはどういった理由からか。

**【事務局】**

多くの発行者が、文科省に検定を申請したということ。それで検定を通った発行者が9者あるということ。

**【委員】**

そうすると、ほかの種目も、基本的に教科書検定を通ったものは、調査研究の対象とするということか。

**【事務局】**

その通りである。

**【委員】**

歴史に関しては市民の方の意見も多い。特に太平洋戦争とかの歴史的評価は、市民の方でどちらの意見もある。参考までに、昔、我々が学んできたような歴史観とは異なる歴史観を採用しているような教科書について、他の自治体とかで採用実績はあるのか。

**【事務局】**

今回の検定で初めて検定に合格した者など、今までの採用実績はないと認識している。

**【委員】**

地理との絡みだが、分布図を勉強するときに、同じ発行者の教科書を使ったほうが理解しやすい。地理で東京書籍が採用されていると、歴史や公民も、同じ発行者の教科書を採用したほうが良いのではないか。それはこの検討の要素に入っていないという理解でよいのか。

**【事務局】**

同じ発行者を選ぶという思いは無い。あくまで着眼点に基づいた結果、全て地理、歴史、公民は東京書籍が優位であったということ。

**【委員】**

前回の教科書採択のときに、見本本が届かない発行者を除外した記憶があるが、今回は見本本の無い発行者も調査研究の対象にしたのには理由があるか。

**【事務局】**

検定を通った発行者は、すべて採択の対象である。今回、インターネット上の情報で、十分に調査、研究をすることができると判断し、調査研究を進めた。前回は、まだまだ十分な調査、研究が難しかったと聞いているが、採択の対象にはしたと理解している。

**【委員】**

I C Tを活用した学習活動の充実ということで、東京書籍が二重丸だが、どう判断したのか説明いただきたい。

**【事務局】**

単純に2次元コードの数量を調査した。上位2社で比較すると東京書籍は136か所で、映像資料と学習の振り返りとか映像資料の視聴が可能。教育出版は21か所。内容は、学習を振り返るクイズや動画の解説等が視聴可能。しかし、その2次元コードの内容は、調査対象にしていない。あくまでも位置付いている箇所と数量による判断で、東京書籍が上位である。

**【委員】**

ぎふMIRAI'sにつながる探究学習の充実が東京書籍ということで、問題解決的な学習が発展的に繰り返されているということ。社会参画の力を養うということは、どうい

う部分が具体的に評価されたか。

**【事務局】**

東京書籍は、各章ごとに探究課題を設けている。課題に対して順序立ててステップアップしていく形で、教科書が構成されている。例示したように、全ての章ではないが、章のまとめのところで次の時代に発展していくよう内容が構成されている。そういった点で東京書籍が上位になった。

**【委員】**

個別最適な学びとか協働的な学びという部分に関しては、どこも二重丸の評価がないが、ここはよいか。

**【事務局】**

これについては、どの教科書でも大切にされている。どちらが優位かといったことは難しかった。結果として、すべて丸とした。

**【教育長】**

種目、歴史の採択について採決をする。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、東京書籍を採択することとする。

次に、社会、公民について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

公民では、6者の教科書見本について、53ページにある資料の着眼点に基づいて、調査研究を進めた。岐阜市の公民の指導では、「現代社会の見方・考え方」を働かせながら問題解決的な学習をすることと、「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習」を重視している。その結果、54ページにあるように、着眼点1(1)において、主体的に現代社会の見方・考え方を働かせる構成になっているだけでなく、活用できる機会を多く設定してあるため、公民の主題である生命の尊厳や人権、民主制等についてより深く理解することができることと、着眼点3(1)において、社会参画の視点で探究的な学びを引き出す構成になっているため、国や県、岐阜市の在り方について考えを深め、シビックプライドの醸成を図ることができることから、「東京書籍」の評価が上位となった。採択検討委員会では、中学校3年生「公民」の出口となる最終単元の学習について話題となり、質疑応答ののち、調査研究結果が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

**【教育長】**

種目、公民についての質問、意見を受ける。

**【委員】**

形式的なところ。先ほどの4番の印刷・製本について、今度はいずれの教科書も丸で差がついていない。例えばページ数を見ると東京書籍が一番少なく、先ほどの話ならば、二重丸ではないか。ここに差がつかないのはなぜか。

**【事務局】**

確かに、重量とページ数に関しては東京書籍が少なくはなっている。先ほどの地理と比較したとき、例えば東京書籍は、章ごとの色分けや見やすさという点から優位である。帝国書院も、同じようなデザインになっているため、大きな差はない。地理では、ページ数のみでしか説明しなかったが、例えば巻末資料の充実といった部分も含めたトータルの評価により東京書籍が優位となっている。公民ではそこまでの差がないという判断で同様の丸という判断である。

**【委員】**

東京書籍の120、121ページと帝国書院の108、109ページというのを比較した。東京書籍は政治参加をしてみようという、住民参加のところの単元でページを紹介。政治参加の帝国書院は、見方、考え方で効率と公正と可能性という視点になっている。これは、それぞれ扱って学ばせたい内容が違うから課題も変わってくるということ。私は、個人的には帝国書院の109ページの上のカードを使って分析するような、考え方を整理して効率、公正を考えていく方法は良いと思う。このページだけを見ればこちらを採用したいと考える。しかし、今、岐阜市で目指すところとしては、東京書籍の課題設定のほうがより適切だということか。

**【事務局】**

見方や考え方など、何を重視するかによって内容は変わってくる。今回、東京書籍は社会参画という点を重視しており、今の岐阜市で目指しているものと合致する。

**【教育長】**

種目、公民の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、東京書籍を採択する。

次に、社会、地図について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

地図では、2者の教科書見本について、57ページにある資料の着眼点に基づいて、調査研究を進めた。岐阜市の地図の指導では、地図独自の視点として「資料の豊富さと分か

りやすさ」と、「ぎふMIRAI'sにつながる探究的な学習」を重視している。その結果、58ページにあるように、着眼点1(1)にあたる「資料の豊富さと分かりやすさ」については、資料を子どもたちがどのように活用し、学びを深めるかについて考え抜かれた分かりやすい資料がより多く掲載されていることと、着眼点3(1)において、岐阜県や岐阜市に愛着を持ち、探究的な学習を深め、社会参画する力を養うことができることから、「帝国書院」の評価が上位となった。採択検討委員会では、東京書籍から採択が変わったことについて話題となり、質疑応答ののち、調査研究結果が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

#### 【教育長】

種目、地図についての質問、意見を受ける。質問、意見はないか。

#### 【委員】

現在、東京書籍の地図帳を使っている。今回、帝国書院が優位であるということだが、東京書籍を採択する前は帝国書院だった。帝国書院から東京書籍に変わり、また帝国書院ということは、東京書籍に変わり何か不都合があったのか。

#### 【事務局】

前回、採択の委員から聞いたが、前回は教科書との関連を重視した。重視した結果、経験の浅い教員も指導しやすいという判断で東京書籍とした。一方、この4年間使ってきた現場の声は、豊富な資料という点では帝国書院が優位。多角的、多面的に考え、情報活用能力を育むとした点では、東京書籍に物足りなさがあるという声が現場からは上がっていた。今回、この着眼点を元に再度、調査研究した結果、帝国書院が優位となった。

#### 【委員】

ICTについては、東京書籍が優位だということだが、二次元コードの数量か。

#### 【事務局】

単純に二次元コードのコンテンツの数量。帝国書院は55に対し、東京書籍は82。よってICTについては東京書籍が優位である。

#### 【委員】

実際、地図を参照するときもタブレットで個々に表示するのか、地図帳を使って学習を進めるということなのか。どちらが主流か。

#### 【事務局】

地図帳は、地理の時間には必ず使うよう指導している。今、どこの学習をしているのか地図帳を確認する。教科書に無い資料も地図帳には豊富に載っているため、多面的に見る

ということで地図帳を使用する。

#### 【委員】

巻末の統計データを見ると、東京書籍は、一見カラフルに見えるが、逆に見づらいつと感じた。下の農水産物と鉱山資源などは、帝国書院が見やすいと思う。データの最新性という意味では帝国書院が良い。逆に工業生産は東京書籍のほうが新しい。できるだけ最新のデータが載っている地図帳が良いと考える。あとは、教科書との関連性ということだが、現場の先生から具体的なデータが必要だという点は、十分尊重する必要がある。

#### 【教育長】

種目、地図の採択について採決をする。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、帝国書院を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、帝国書院を採択する。

次に、数学について、事務局、説明願う。

#### 【事務局】

数学では、7者の教科書見本について、61ページの着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。その結果、着眼点1(1)において、「大切にしたい数学の学び方」が掲載されており、既習事項を利用して問題解決を進め、深い学びに向かう力が少しずつ身についていく構成になっていること、着眼点1(2)において、小学校から中学校3年生までの学習内容が数学的な見方・考え方を視点にまとめられており、各領域での系統性を捉えることができるように工夫されていること、着眼点1(3)において、キャラクターの吹き出しが、大切な数学的な見方・考え方に気付き、統合的・発展的に考えるように促していることが挙げられた。さらに、着眼点2(2)においては、「学びをふり返ろう」「ふり返りレポート」等を位置付け、これからの学習や生活につなげたり、見方・考え方を確かにしたりできる工夫があり、主体的に学習に取り組むことができること、着眼点2(3)において、インターネット上のコンテンツの内容を明確にしたマークを記載し、必要に応じて生徒自身が適切に活用できることが挙げられた。これらのことから、62ページにあるように「東京書籍」の評価が上位になった。採択検討委員会では、小学校算数との連携や採択される教科書が前回の採択から変更される理由について話題となり、質疑応答ののち、適切かつ十分な調査研究であると、全会一致で議決された。

#### 【教育長】

種目、数学についての質問、意見を受ける。質問、意見は無いか。

**【委員】**

検定済みの年号を確認する。大日本図書が令和2年。その点に関してはどうなのか。

**【事務局】**

大日本図書は、今回は検定に申請しておらず、前回、検定を通ったものを採択の対象としている。東京書籍など他の教科書は、内容を変更して新たに検定を受けたものである。

ただ、大日本図書の数学については、数学的な見方、考え方等について大事にしていることは変わりがない。よって大日本図書についても他の発行者と同様に調査研究した。

**【委員】**

I C Tの関係で東京書籍は優位となっている。東京書籍は、全てのページに二次元コードがあるということだが、二次元コードの中身は何か。

**【事務局】**

二次元コードにもいろいろ種類がある。二次元コードと一緒にDマークというマークがついており、Dマークのある箇所の二次元コードには、ヒントと回答、フラッシュカード、シミュレーションなどが示してある。

**【委員】**

実際の授業で、二次元コードをタブレットで読み込んで活用するというのは、多いのか。

**【事務局】**

以前の教科書でも、子どもたちが操作できるものがあるので、それを使って操作したり、練習問題が教科書以外にもあり、そういったものを活用して個別最適な学びに応じたりすることができた。

**【委員】**

そこを重視しているから着眼点になっているということか。

**【事務局】**

そうである。

**【委員】**

大日本図書の事情は分かったが、大日本図書だけ二重丸がついている項目が2つ、2の1と3とある。例えば3のほうは「岐阜市に生まれ育つ子どもに適した教科用図書」ということで、具体的にどの部分から二重丸としたのか。今回、東京書籍になった場合に、今まで大日本図書で、できたことができなくなるという捉え方もできる。その辺りはどのように考えたのか。教科書を変えることで、どういう問題が具体的に生じるか。

**【事務局】**

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」というところだが、大日本図書は、

ほかの者よりも考えを比較している内容が多い。例えば、大日本図書3年生の62、63ページが特徴的な部分だが、このサクラさんの考えとアオイさんの考えを比較するような箇所が多く載っている。ただ、東京書籍にも同様の箇所はある。例えば、同じく3年生の64ページ、ハルキさんとアオイさんの2つの考えが比べられているところがある。その量の違いは、教師が子どもたちの様子を見ながら対応していくので大丈夫と考えている。大日本図書は、岐阜市とか岐阜県の内容が取り上げられているところが多い。東京書籍には、そういったところは少ないが、生活の場面を取り上げているところが多くある。子どもたちが身近なこととつなげて考えるという機会が多くなっている。ただ、岐阜市に限定すると、数量的に大日本図書の評価が高くなる。

**【教育長】**

この二重丸の岐阜市を取り扱っている具体的な事例はあるか。

**【事務局】**

大日本図書2年生の168ページ、データの比較と箱ひげ図というところ。信長像が出ています。データも岐阜市のデータです。このように、岐阜市の内容が入っているということ。東京書籍は、いろいろな説明の中に、岐阜県の図形を捉えたものを扱っているということはある。しかし確認ができなかったため評価に入れていない。

**【教育長】**

説明があったように、岐阜市の数学教育というのは、数学的な見方や考え方を大事にしてきた。そして大日本図書を長きに使ってきているが、それが東京書籍に変わっても同じように、数学的な見方や考え方を大事にした学習はできるという提案ということによいか。

**【事務局】**

特徴的なところを説明すると、東京書籍の3年生の教科書の115、116ページ。ここに問題をつかむ、見通しを立てるなど、学び方が順に書いてある。116ページでは、ハルキさんアオイさんの吹き出しの中に、大事な見方や考え方が書いてある。さらに、このアオイさんのところに虫眼鏡マークがついている。そこが数学的な見方、考え方に着目する点になる。下のほうのハルキさんのところでも、赤字で「同じように考えると」と大事な見方や考え方が書いてある。そういったところに着目すれば、見方、考え方を大切に、授業を進めていくことができる。

**【教育長】**

種目、数学の採択について採決をする。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、東京書籍を採択する。

次に、理科について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

理科では、5者の教科書見本について、P65の着眼点に基づいて、各者の特徴、よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。その結果、「東京書籍」の評価が上位となった。採択検討委員会では、調査項目1(1)～(3)「資質・能力の3つの柱をバランスよく育成する」や調査項目2(1)(2)の「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」等が話題となり、「東京書籍」の教科書は、子どもにも教師にも使いやすいものになっているという意見が多くあった。検討委員会では、探究の過程の出発点である、生徒が興味、関心を高め、課題意識をもって主体的に取り組む、いわゆる「導入」の点から優れた教科書はどの教科書かという質問が出された。どの教科書も、大きな一連のまとまりである単元の導入には力を入れているが、特に東京書籍は単元だけでなく、さらに細かい章ごとにも導入に工夫があり、優れていることを確認した。更なる質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

**【教育長】**

種目、理科についての質問、意見を受ける。質問、意見は無いか。

質問が出るまで、東京書籍の着眼点1位のよさが現れる特徴的なページを示せないか。

**【事務局】**

啓林館2年生、237ページと、東京書籍2年生の262ページ。理科の東京書籍が優れている点は、探究を扱っているところ。東京書籍は探究という点において優れている。今、開いているページは、両方とも電流による発熱の実験。啓林館は、実験の方法を説明しているが、東京書籍には、仮説というページが設けられている。このように、通常、探究の学習では、仮説を重要視しておきたいものであり、そのことがこの1ページに示されている。ほかにも、東京書籍、21ページと啓林館、148ページ。同じ熱分解というページ。この熱分解というページでは、通常、水に電流を流したときの変化ということで、啓林館のように示すが、東京書籍は、探究を振り返ることでその重要性を強烈に示している。

**【教育長】**

種目、理科の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、東京書籍を採択する。

次に、音楽一般について、事務局、説明願う。

#### 【事務局】

教科「音楽」種目「音楽」。表現領域創作活動を例にし、説明する。「教出」の2・3下、30・31ページ。「音のスケッチ」では、創作活動の過程を分かりやすく示すとともに、自分の考えをもって学習を進める場面と、仲間と作品を交流して学習を進め、仲間から学んだことをもとにして、自分の作品に生かすことができるように仕組みられている。また、教科書に掲載されている創作の作品例音源を、二次元コードから確かめることができ、生徒自身が創作活動の見通しをもって進めることができるように工夫されていると共に、無理なく指導ができるようになっている。続いて「教芸」の2・3上、34・35ページ。「Let's Create!」では、創作活動の過程を分かりやすく示すとともに、じっくり自分の考えをもって学習を進める場面と、仲間と意見交換をして協働的に学習を進める場面が、意図的に位置付けられている。また、二次元コードから「創作ツール」を使うことで、試行錯誤しながら創作活動に取り組むことができ、生徒自身が意欲的に進められるように工夫されていると共に、無理なく指導することができるようになっている。また、一人で作ったリズムを仲間と組み合わせることで、音楽を創り上げていく過程を大切にしており、協働的な学びにつながる。どちらの教科書も、創作の活動においては、生徒が楽しく創作ができるように、また、教師が指導しやすいように、よく考えられているが、「協働的な学び」「個別最適な学び」という点では、「教育芸術社」の方がよく考えられている。結果、「教育芸術社」の評価が上位となった。採択検討委員会では、「日本の伝統音楽や民謡に」について質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

#### 【教育長】

種目、音楽一般についての質問、意見を受ける。質問、意見はないか。

#### 【委員】

音楽は、子どもたちが豊かな感性を持って学んでいける楽しい時間にするというのも、一つ願いとしてあると思うが、その点が着眼点にはないが、どのように考えたか。

#### 【事務局】

音楽は、1人で追究することともに、仲間と音楽をつくっていくというところが大事である。今回の調査研究においても仲間たちと一緒に活動ができるという点に審議は進んだ。教科書を使いながら、また、1人1台のタブレットを使いながら、子どもたちの学びを深めていけるようにという点でも教育芸術社が優位だという判断である。

#### 【委員】

器楽にしても音楽にしても掲載されている歌が異なるが、特に指定されているものでは

ないのか。

**【事務局】**

学習指導要領においては心の歌というのがあり、指定されている曲もある。そのため、同じ教材が載っているということはある。

**【委員】**

何が選曲されているかは、調査研究には関係が無いのか。

**【事務局】**

選曲自体は議論にはならなかったが、学びやすさであるとか音楽のよさ、美しさという観点を基にしながら、調査研究は進めた。

**【教育長】**

種目、音楽一般の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、教育芸術社を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、教育芸術社を採択する。

次に、音楽、器楽について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

ギターの学習を例にとって説明する。「教出」の32～37ページ。「教育出版」では、演奏スタイルがよくわかる写真、構え方や楽器の各部分の名称などを、写真や図を使って示している。ギターについての基本的な知識を学んだ次に、演奏の仕方や色々な奏法、そして簡単な曲の学習と、生徒が自然に無理なく学習を進めることができるように、構成されている。「教芸」の26～31ページ。「教育芸術社」では、学習の導入である1ページ目に、演奏スタイルがわかる写真とともに、「ギターの演奏を聴こう」として、ギターの名曲が示され、鑑賞の活動とも融合が図られている。また、クラシックギターの他、フォークギター、エレキギターの紹介、様々なギターの演奏スタイル、弾き語り、二重奏、バンドなどの紹介もあり、ギターへの興味・関心を沸き立たせるようにしている。生徒たちが、ギターへの関心を高めたうえで、2ページ目以降、各部の名称や構え方、奏法などの学習…というように構成されている。生徒が、限られた音楽の時間の中で、楽器の技能を身に付けるには、主体的に学ぶ意欲が重要となる。その楽器に、興味をもったり、これまでの生活経験の中で、その楽器との関わりを想起したりするなど、特に学習する導入は、とても重要となる。その点では、「教育芸術社」の方が、よく考えられている。以上のことから、「器楽」の教科書として、「教育芸術社」が適していると判断した。「ギターの種類や演奏者の認知度」において質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致

で議決した。

**【教育長】**

種目、音楽、器楽についての質問、意見を受ける。質問、意見は無いか。

**【委員】**

目次は、大体似たような内容に見えるが、意外と各者の個性が出ている。教育芸術社は、学校で実際に取り扱う可能性が高いものにページが割かれている。内容については、子どもたちが興味、関心をもって学べるようなつくりになっており、教育芸術社で良いと思う。

**【委員】**

コロナ禍により、リコーダーや鍵盤ハーモニカを演奏することや合唱などを控えていたので、子どもたちは、箏の演奏に取り組んでいた。「琴」と書いてあるのと「箏」と書いてある教科書があるが、どういうことか。

**【事務局】**

学習指導要領には「箏」というふうに書いてある。ただ、学校の中では「箏」と言っている。教育出版でいうと40ページ、「箏『こと』」というふうに書いてある。教育芸術社では34ページには「琴」と書いてある。本来であれば「そう」と読むのが本来だが、どちらでも間違いではない。

**【委員】**

学校では「箏（そう）」と習っている気がする。教育芸術社は「琴」。それは問題がないのか。

**【事務局】**

「こと」という読み方もできるので、楽器では「そう」と言っているが、「こと」ということでも間違いではない。

**【委員】**

たくさん楽器の種類が載っているが、生徒はすべての楽器を練習するわけではないが、いつかはやるという捉えなのか。

**【事務局】**

そのとおり。学校、生徒の実態、学校のその地域の状態等もあって、全ての楽器を取り扱うということではなく、その中で幾つか選びながら、子どもたちの学びが展開できるように考えている。

**【委員】**

それは学校によって、扱っている楽器が異なるということか。

**【事務局】**

中学校によっては、篠笛をやっているところもある。箏を扱う学校もある。

**【委員】**

教科書としては、あらゆる楽器について満遍なく説明していることが大事ということか。

**【事務局】**

やはり中学校では、義務教育最後の音楽の学習である。広く様々な楽器を説明するということは、とても重要なポイントである。

**【教育長】**

種目、音楽、器楽の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、教育芸術社を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

**【教育長】**

採決の結果、教育芸術社を採択する。

次に、美術について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

美術科では、3者の教科書見本について、77ページにある着眼点に基づき、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。着眼点1-(1)においては、題材数が最も多く、種類もバランスが取れているのが、「日本文教出版」であるという調査結果となった。また、2-(2)においても、「鑑賞の入り口」が質問形式で分かりやすく記載されており、教師にとっては、発問、生徒にとっては学習課題及び振り返りの視点としてそのまま活用できるという点でも「日本文教出版」が秀でていたという結果になった。そのほかにも、同世代の多様な表現を掲載し、幅広い方法の中から主題や願いに応じた選択や決定ができるように工夫されていることや、QRコンテンツの配置により、題材導入時に学習意欲と造形的な見方・考え方を高められるといった点なども含め、資料78ページのように「日本文教出版」の評価が上位となった。このような説明ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

**【教育長】**

種目、美術についての質問、意見を受ける。質問、意見は無いのか。

**【委員】**

基本的なことだが、2、3年の上下と分かれている場合と、2、3年と分かれている場合、どういうことでこれ違ってくるのか。

**【事務局】**

基本的には、学習指導要領が1年生と2、3年生とに分かれていることから、それをま

とまりごとに教科書を作るため、この2、3年に分かれている。日本文教出版は、題材数を多く掲載しているということから、上下巻に分けている。

**【教育長】**

文教出版の特徴的なページはあるか。

**【事務局】**

2、3年生の下の10、11ページ、私自身を見つめてという自画像のページ。他の者にも同様の自画像に関わるページがあるが、同年代の作品や表現の方法をたくさん取り入れているといった点で、大変扱いやすく、子どもにとっては身近で意欲が湧きやすい内容になっている。また、二次元コードが各題材についており、そこから導入コンテンツを閲覧でき、意欲を湧きやすいつくりになっている。

**【教育長】**

岐阜市や岐阜県ゆかりのアーティスト、芸術家の作品について触れているものはあるか。

**【事務局】**

地域性のある題材、素材について、日本文教出版では、2、3年生上の34ページにある。日本の技と心を受け継いでというところで、岐阜の各地で生産される木、土、和紙を素材とする題材の取扱いが多く、関連して地域の素材について学び、その魅力が味わえるように配慮されている。

**【教育長】**

種目、美術の採択について採決をする。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、日本文教出版を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

**【教育長】**

採決の結果、日本文教出版を採択する。

次に、保健体育について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

保健では、4者の教科書見本について、81ページにある着眼点に基づいて、各者の特徴、よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。その結果、資料82ページにあるように、岐阜市の教育が大切にしている「生命の尊厳」という観点から、生命の誕生について図や写真が大きく、視覚的にも見やすい配慮がされている点や、がんや脳死、臓器移植についてより丁寧に示されている点から「学研」の評価が最上位となった。採択検討委員会では、心の安定やメンタルヘルス、性意識に関することや、自他の命を守る方法について話題となったが、更なる質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で

議決した。

**【委員】**

がんと臓器移植の件に関してはよく分かった。今、心、メンタルヘルス、レジリエンスという言葉をよく聞くが、子どもたちがどう自分の心を強く持つていくかということが、ポイントになってくるかなと思う。また、子どもたちは思春期になると「性」に関することに興味、関心は高くなる。そういったこの2点に関する評価というのは実際どのような感じだったか。

**【事務局】**

学研の64ページ。リラクゼーション、心と体の発達、心を安定させるためにといった内容が掲載されている。あわせて、66ページは「性の多様性」ということで、LGBT、SOGIなどに関する記載がある。東京書籍等にも記載はあるが、1冊の中に点在している状況。学研は、まとまって記載されているため、子どもたちが心と体の安定について知りたいときに、調べやすく、より主体的に考えられる工夫がされている。よって、学研が適していると判断した。

**【委員】**

生命に関することやいじめなどについて、学研が一番適しているということだが、もう少し詳しく説明願う。

**【事務局】**

岐阜市の不登校の児童・生徒の数の現状から、心身の発達と心の健康、特にこの自分で自分の心をコントロールする方法や、何か自分がつらくなったときに、そのつらくなった心を対処できる方法という部分が、学研には、大変、多くの掲載があるため、岐阜市の子どもたちに適していると判断した。

**【教育長】**

種目、保健体育の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、学研を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、学研を採択する。

次に、技術、家庭、技術分野について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

技術では、3者の教科書見本について、85ページにある着眼点に基づいて、各者の特徴、よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。その結果、生活や社会の中にある課題を各種の関連する資料をもとに、課題解決の糸口を配列し、深く思考することで、解決

策を導き出す展開となっている等の点から86ページのように「東京書籍」の評価が上位となった。採択検討委員会では、内容項目「情報の技術」におけるデジタルシティズンシップの取り扱いについて話題となり、更なる質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

**【教育長】**

種目、技術についての質問、意見を受ける。質問、意見は無いか。

**【委員】**

デジタル・シティズンシップ教育について、東京書籍が単純に多くのページを割いていること、プラス・マイナス両方を考えさせてということに留意していることの説明を聞いたが、教科書の中でもデジタル・シティズンシップという言葉は使っていない。あくまでも情報モラルという中での紹介ということは、これを使って岐阜市で授業をするときは、デジタル・シティズンシップにつながっていくという教え方をするというイメージなのか。

**【事務局】**

情報モラルという言葉が、現行の学習指導要領には記載がある。教科書も同様の記述になっている。岐阜市ではデジタル・シティズンシップを推し進めているため、現在も、先生方はそういった意識で子どもたちに指導している。

**【委員】**

それは、ある程度、各先生の教科指導の研究に委ねられる部分なのか、ある程度、技術の先生方で統一的に指導していることなのか。

**【事務局】**

どちらかという、岐阜市にはICT推進教師を各校に位置づけており、岐阜市としてのデジタル教育の推進を中心に取り組んでいる。技術科はICT推進教師と連携しながら指導しているところである。

**【委員】**

プログラミング教育の点においては、どうか。

**【事務局】**

プログラミングについては、各者とも大きな差はない。どの教科書にもmicro:bitが紹介されている。岐阜市でいうと、micro:bitはタブレットにアプリが導入されている。また、各学校に機材が導入されている。東京書籍が、micro:bitを使った事例や写真が、ほかの2者と比べて豊富であることが特徴的である。

**【委員】**

情報処理は、基本的に問題解決の手法だと思う。そのことは、教育図書が丁寧に書かれ

ている。micro:bitといった具体的な内容に対しては、東京書籍が優位であるが、全体の考え方としては、東京書籍が優位であるとは言い難い。その辺りの評価というのはどう議論されたか。

**【事務局】**

確かに教育図書のプログラミングについては、ほかの2者に比べると内容面で豊富なところは考えられるが、東京書籍も記載されている。指導者としては十分だと考える。結果として総合的に見たところで、岐阜市の子どもたちにとって、東京書籍が最も適しているという判断に至った。

**【教育長】**

種目、技術の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、東京書籍を採択する。

次に、技術、家庭、家庭分野について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

家庭では、3者の教科書見本について、89ページの着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。その結果、題材の導入で「考えてみよう」の活動を位置付け、自分の生活を見つめたり、これまでに学んだことを生かして、総合的に考え、交流し、検討したりする活動が仕組まれており「主体的・対話的な活動の充実を図り、深い学び」につなげている、また題材によっては、生徒が比較検討するための情報を様々な要素から総合して判断する必要があり、他者と話し合い、討論しても迷いが生じる仕掛けになっており「主体的で協働的な学び」につながっている等の点から、90ページのように「東京書籍」の評価が上位となった。採択検討委員会では、家庭や地域に主体的に取り組める活動、防災教育について話題となり、質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決した。

**【教育長】**

種目、家庭についての質問、意見を受ける。質問、意見は無いか。

**【委員】**

着眼点のうち、1の(3)の「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」と(1)の「主体的かつ協働的な学びの充実」の違いは何か。

**【事務局】**

1の(3)というのは、今まで学んだことを基に仲間と一緒に考えて、仲間の意見を通

して考えていくこと。2の(1)の「主体的かつ協働的な学びの充実」は、東京書籍では、消費生活の購入の意思決定の場面になる207ページ。教育図書は227ページ。開隆堂は267ページ。そこに消費生活の購入時の意思決定ということで、それぞれ3者挙げた。東京書籍は、自転車の購入に際して、比較、検討するための情報などが、値段、機能、支払い、保障内容、中古車の引取り、購入場所、様々な要素が挙げられている。教育図書は、ブロッコリーの購入で、比較検討する情報が値段と産地ということになっており、開隆堂は、スニーカーで値段とデザインと購入場所というふうに挙げられている。その子一人一人の生徒が何を大切に選ぶのかということを考えさせるもの。その中で、自分が主体的になって考えていくという部分と、仲間が大切にすることを検討しながら、自分が何をを選んでいくかということを中心に考えていくことが、2の(1)に当たると考えている。

1の(3)というのは、家庭内事故のところの説明すると、仲間の意見から、正解は1つではないと考えるようになり、自分が大切にすることを明確にしなが、仲間の意見も取り入れ、よりよい家庭生活につなげていくということが当てはまると考えている。

**【委員】**

この2つの項目の違いは、対話的と協働的というものは違うということか。

**【事務局】**

2の(1)が「主体的かつ協働的な学びの充実」ということで、学び方が多様に示されているという部分を視点とした。

**【委員】**

「授業改善」という部分は、重きを置いて議論はなされなかったのか。

**【事務局】**

例えばグループ活動において、自分が思っていることを仲間に話しながら、よりよい解決方法を見つけていくという部分で、教師が一方的に例示するのではなく、個に応じて考えさせる部分があるかといったことを視点に議論はあった。それが、授業改善に関わる部分であると考えている。

**【委員】**

質問の趣旨は、この2つの要素が同じような観点だと、それは東京書籍が有利になるということを示したかった。しかし、検討しているということで承知した。

**【教育長】**

種目、家庭の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、東京書籍を採択する。

次に、英語について、事務局、説明願う。

#### 【事務局】

英語では、6者の教科書見本について、93頁の着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。その結果、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成すること、他教科の学びとの関連性、岐阜市の生徒の実態等に適した教科書などの観点から、94頁のように「東京書籍」の評価が上位となった。採択検討委員会では、特に評価の高かった「東京書籍」と「三省堂」の二者を中心に比較した。平和や人権など、題材のよさが際立つ「三省堂」に対して、「東京書籍」は表現活動に重点を置き、スモールステップでどんな生徒も着実に主体的な学びを進めることができる。また「東京書籍」は、岐阜市の子どもの課題である「将来の夢や目標をもつこと」について、考えるきっかけとなるような言語活動も設定されている。採択検討委員会では、表現活動の内容や取り組みやすさが話題となり、質疑応答ののち、調査研究が適切かつ十分であると全会一致で議決された。

#### 【教育長】

種目、英語についての質問、意見を受ける。質問、意見はないか。

#### 【委員】

我々の世代に比べて読み書きだけではなく、話したり聞いたりということも、必要になってきている。そこが、今は、ICT機器を使ってできるようになっていると思うが、その部分に関して東京書籍しか二重丸がついていないが、どの部分が評価されているか。

#### 【事務局】

ICT機器というのは、デジタル教科書や二次元コード等で参照できるような教材であるため、採択の対象としている紙の教科書において説明する。東京書籍、3年生の31ページ。こちらはユニット3、単元が始まる時のもの、どんな場面で誰が会話しているかということが、理解しにくい内容である。しかし、動画を通して分かりやすくなっている。また、その状況を理解した後、すぐに自分たちの活動につなげることができるといった良さがICTを活用することにはある。

#### 【委員】

教科書の構成は分かった。例えば自主学習に際してICT機器というのは、教科書を使いながらになるが、どういった学びの要素があるか。

#### 【事務局】

自主学習等では、単語等の調べ学習ができる。例えば意味だけでなく、挿絵が豊富で調

べやすいというメリットがある。語句のイラストや音声とか使用例を自宅でも確認することができる。

**【委員】**

市内の中学生の英語の学力というのが、全国的に見ても高い。その点で教科書の難易度は、変わらないということによいか。例えば、採択された東京書籍の難易度が少し高めになっているとか、そういったことがあるか。また、昔は希望者によって音声CDを買ったようなことがあったが、そのCDも各教科書についてはいるものなのか。

**【事務局】**

教材販売業者から、音読とかインプットのところを強化するために、CDを販売していたことはあった。今は、教科書にある二次元コードやデジタル教科書等で確認できるようになっている。また、難易度について、岐阜市の学力は、全国学力学習状況調査において高い傾向にはある。しかし、書いたり話したりするという点では、正答率は低い。ここから表現活動を中心に授業を組んでいくことが重要だと考えられる。三省堂と東京書籍を比較すると、三省堂は、読み物としては難易度が高い。その上、インプットに重点が置かれ、アウトプットの活動が十分できない。その点、東京書籍は、スモールステップで誰でも表現力がつけられる。よって、東京書籍が優位となった。

**【委員】**

CDの販売は、教科書発行者ではなく、教材販売業者なのか。

**【事務局】**

現状は、CDがなくても、デジタル教科書等や教科書の二次元コードを読むことによって、本文の発音や単語が聞ける。

**【委員】**

三省堂のほうを読み物として難易度が高い内容だと言われたが、純粋に国語と同じように考えると、理解の容易な読み物を読んで考察するよりも、難易度の高い読み物を読んで、考える方が思考力を鍛えるという意味では必要ではないか。英語で表現できるかどうかというのは、また別だが、そういった意味で考えると「NEW CROWN」のほうが良いのではないか。受験では、英文が全体的に長めになってきている。読み物を読ませることも重要であり、読んで考察していくという力をつけさせるということも重要ではないかと思うがどうか。

**【事務局】**

三省堂は、読み物として難易度が高いという表現をしたが、これは逆に、東京書籍が軽いというわけではない。東京書籍は、読んだ内容を基に表現することを重視しており、読

むものが多くなればなるほど、表現の活動の時間が減ってってしまうということを考えると、話す、聞く、読む、書く、といった内容のバランスが重要となる。東京書籍は、そのバランスという点で、岐阜市の子どもたちに適しているという判断となった。

**【教育長】**

種目、英語の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、東京書籍を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

**【教育長】**

採決の結果、東京書籍を採択する。

次に、道徳について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

道徳では、7者の教科書見本について97ページの着眼点に基づいて、各者の特徴・よさを資料にまとめながら、調査研究を進めた。その結果、特に着眼点1－(3)「道徳的価値の理解を深めるための主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を進めるための工夫、着眼点3－(1)「岐阜市の生徒の実態等に適した教科用図書」として、岐阜市教育大綱基本方針に示す生命の尊厳への理解を深める「いじめ」に関する内容の適切さ、着眼点4の「印刷・製本」の教科書の重量などから、98ページのように、「日本文教出版」の評価が上位となった。採択検討委員会では、岐阜市のいじめの指導や人権教育との関連、考え議論する道徳の例示などについて話題になり、質疑応答ののち、適切かつ十分な調査研究であると、全会一致で議決された。

**【教育長】**

種目、道徳についての質問、意見を受ける。

質問、意見はないか。

**【委員】**

目次から、文教出版は、いじめと向き合うということが、どの学年も結構なページを割いてあるが、東京書籍は、それとは別に命を考えるとというのが必ず各学年にある。見える形ではこちらのほうがちゃんと発揮されているなどと思うが、どの部分を、特に命の大切さに関しては評価したのか。

**【事務局】**

どの教科書も、いじめだとか生命の尊厳に関することはやっぱり最重要の項目として位置づけられているということは、調査研究でも話題になった。日本文教出版では、目次では書いていないが、8番、あと24番、27番というふうに広く網羅できるような形で設

定されている。生命の尊厳についての内容は、どこも重視されていたということも話題になった。

**【教育長】**

種目、道徳の採択について採決する。採択検討委員会の議決を踏まえ、教育委員会として、日本文教出版を採択することに賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

**【教育長】**

採決の結果、日本文教出版を採択する。

ここまでで、中学校の分の採択については終了とする。

次に、小学校の教科書採択について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

小学校では、昨年度採択し、本年度から使用している教科書について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条によれば、政令で定める4年間、同一の教科用図書を採択することとされている。小学校の教科用図書は、本年度「4年ごとの節目の年」、いわゆる「採択替えの年度ではない」ため、昨年度と同一の教科用図書を採択することとされている。なお、無償措置法施行規則第6条に掲げる「採択した教科書が発行されない場合」や、「採択地区に変更があるなどの場合」については、昨年度に採択した教科書と異なる教科書を採択することができるとされているが、該当はない。資料102ページには、現在岐阜市立小学校で使用している教科書を示している。採択替えの年度ではないことから、引き続き、本年度も小学校については、同一の教科用図書を採択し、来年度も同一の教科用図書を使用することとして提案する。

**【教育長】**

小学校の教科書採択について、質問、意見を受ける。質問、意見は無いか。

**【委員】**

来年度の教科書については、このようにお願いしたところだが、今後の岐阜市の教科書採択に関しては、どのようにお考えか。

**【事務局】**

まだ、現状、明確なことということは、はっきりはしてない。ただ、岐阜市としては単独採択ということで実施している。今後、岐阜県等とも検討を重ね、進めていく方法は考えていかなければいけない。現時点では、決定はしてない。

**【委員】**

私が教育委員になってから、岐阜市独自の採択方法だが、以前は違っていたということ

を聞いている。一度どの方法がベストなのか、違う方法もあるのかななどを検討していく機会にはなっていると思うので、十分に検討願う。

**【委員】**

昨年、たしか1つか2つ、以前から使っていたのと変わった教科があったと思うが何だったか。

**【事務局】**

3教科、3種目。

**【委員】**

その変わったものに対して、現場から問題や意見が出てきていないか。

**【事務局】**

昨年度、採択替えのあった教科書は、生活科、保健、道徳の3つの種目。現在、教員から使い勝手が悪いとか、あるいは、子どもたちからこの教科書ではということの意見は受けていない。したがって、教科書として適切なものと捉えている。

**【教育長】**

小学校用教科書について、教育委員会として、前回採択した教科書発行者を採択することに、賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

**【教育長】**

採決の結果、前回の採択と同様の発行者を採択する。

最後に、特別支援学校の教科書採択について、事務局、説明願う。

**【事務局】**

岐阜特別支援学校の教科書は、「著作教科書（通称：☆本）」と「学校教育法第9条第1項の規定による教科書（通称：9条本）」の2つから採択されている。まず「著作教科書（☆本）」について。「著作教科書（☆本）」は文部科学省が著作したものであり、幅広い障がいの度合いに対応し、非常に汎用性の高いものであるため、多くの特別支援学校が採択しているものとなる。この「著作教科書」は、国語、算数・数学、音楽があり、発達段階や障がいの度合いに合わせて学習ができるようになっている。例えば国語の「著作教科書（☆本）」で言うと、小学部の☆では、ひらがなの学習、身の回りものの名前を知るなど、言葉の使い方や文字の認識を中心とした学習内容となっている。中学部の☆☆☆では、将来の自立を目指した日常生活に必要なスキルを身に付ける内容となっている。高等部は工業コースでは、自立を目指すため一般図書を選定しているが、普通コースにおいては☆☆☆☆☆を使用し、敬語やお礼の手紙の書き方など、卒業後に役立つ、生活に密

着した内容を学べるようになっている。次に「一般図書」について。「一般図書」を採択する際には、児童生徒の障がいの種類・程度、特性および心身の段階に最もふさわしい内容、文字、表現、挿絵、取り扱う題材等の図書を適切に選定することとしている。また、文字の大きさやフォントなど、子どもたちの実態や学習活動の状況にも十分に配慮が必要であり、使用頻度や、年度をまたいで使用するなど、特別支援学校の児童・生徒の実態に合わせて選定している。小学部の「一般図書」図画工作では、様々な画材や表現方法を発達段階に応じて学ぶことができる教科書を選定している。2年生では、鉛筆やクレヨンやマジックペンなどの画材をつかんで使用するという発達段階を考慮し「らくがき」をテーマにした表現を学ぶ。5年生になると「切り絵」、6年生になると「絵の具」を使った表現を学ぶ内容となっている。中学部の「一般図書」理科では、身近な野菜を栽培し、観察できる内容の図書を選定している。文字を読むことが苦手な子どもに対して、写実的なイラストを見ながら、発芽から収穫まで、季節の野菜が成長する様子を見ることができる内容となっている。これらの「一般図書」を使用することで、繰り返し学びながら習得をしていく生徒が社会生活に必要な知識や技能を身に付けることに加え、社会性を身に付けることができると考える。岐阜特別支援学校では、7月2日に、学識経験者やPTAの代表者を招聘し、「教科書選定委員会」を行った。本に触れる機会がなかなかない分、教科書の存在は大きい。保護者も学べる、卒業しても繰り返し読める内容のものが多く、ずっと役に立ちそうなのがよい。といった意見があった。岐阜特別支援学校の教科書においては、子どもたちのペースで学びを進めることができる教科書を選定している。承認いただきたい。

#### 【教育長】

特別支援学校の教科書採択について、質問、意見を受ける。

#### 【委員】

今、手元に来た音楽の4、中学生向けものだが、結構字が小さいなと思った。普通の学校の教科書は、A1の規格になっている。感覚的にもう少し字が大きくイラストも大きく見やすく作ってあるのかと思っていたが、物足りないように感じる。ほかに選択肢がないのか。

#### 【事務局】

他に音楽に関わる本はあるが、内容を比べると、星本のほうは圧倒的に内容が充実しているので、そちらを選定している。

#### 【教育長】

通常の教科書と違って、星本は文科省が直接著作をしている。そこは、方針が違う。

特別支援学校用教科書について、教育委員会として、提案どおりの教科書を採択することに、賛成の方は挙手願う。

(賛成者挙手)

採決の結果、提案どおりの教科書を採択する。

以上、第46、47、48号議案についての審議を終了する。

事務局は、引き続き、県への報告等、適切に対応願う。

それでは、以上で定例会を閉会とする。